『社会言語科学』特集論文募集のお知らせ

学会誌編集委員会では，以下の要領で特集「変貌するコミュニケーションと社会言語科学II：変容するメディアとコミュニケーションに関する研究」の論文を募集いたします．特集に投稿された論文は，通常の投稿論文と同じく，査読を経て掲載が決定されます．

特集では最終投稿期限が設定されていますが，投稿論文は基本的に投稿され次第，査読作業に入りますので，より早く投稿された論文ほど査読が早く進みます．なお，刊行時期までに採択とならないときは，特集号以外の号に掲載されることもありますのでご了解ください．

特集論文の最終投稿期限：2025年9月30日（火）
掲載号の発行：2026年9月（第29巻第1号に掲載予定）
特集論文の投稿先：電子投稿システムを通じて投稿してください（HPの「学会誌」ページ参照）

変貌するコミュニケーションと社会言語科学II：
変容するメディアとコミュニケーションに関する研究

担当エディター：朝日　祥之（国立国語研究所）
小川　一美（愛知淑徳大学）
高木　智世（筑波大学）
高丸　圭一（宇都宮共和大学）
寅丸　真澄（早稲田大学）
南部　智史（モナシュ大学）
村岡　貴子（大阪大学）

本学会が創立されてから四半世紀が経過した．初代会長の徳川宗賢氏は，本学会設立の目的として，人類社会，とりわけ言語またはコミュニケーションを人間・社会・文化との関わりにおいて調査研究し，そこに内在する言語問題を幅広く取り上げ，その解決を志向していくことを掲げた．

本特集号は，この四半世紀に言語とコミュニケーションに生じた変容を取り上げる．この間に生じた社会の変容は，さらなる国際化，情報化，そして，サステナビリティ実現のための活動実践などに代表されよう．これらを言語とコミュニケーションに関連させると，例えば，人の移動による新たな言語接触，多言語主義や複言語主義，言語権，インターネットやスマートフォンなどの新たな通信環境，通信手段の発達，SNSや電子メールなどのコミュニケーションの普及，また，マイノリティに関わる諸問題を再評価することによるダイバーシティへの関心の高まり，医療福祉や行政分野における専門家と非専門家との言語コミュニケーションに見られる問題など，実にさまざまである．

これらの今日的課題に関する検討を特集号エディターで行った結果，本特集号のテーマを「変貌するコミュニケーションと社会言語科学」とすることとした．このテーマは，多くの研究分野，研究方法に関わるもので，本学会の強みを活かしたものである．四半世紀における本学会の歴史の中でさまざまな研究分野の学会員による学際的研究により培われてきた領域を「変貌するコミュニケーションと社会言語科学」という共通の特集号テーマとして捉える．具体的には次に述べる二つのトピックを二つの巻（28巻，29巻）の特集

号として設定し，論文投稿を呼びかけることとした．

この二つのトピックは，「インクルーシブな社会の実現を目指したダイバーシティ研究」（28巻）と「変容するメディアとコミュニケーションに関する研究」（29巻）である．本特集号のテーマで取り上げる二つのトピックは，多様化・情報化・グローバル化の進む社会を代表するものであるという点で共通している．これに加え，いずれのトピックもこの四半世紀の間にそのあり方，普及の仕方に大きな変化が生じたものである．その変化によって生じた言語とコミュニケーションへの影響は少なくない．もちろん両者が相互に作用してきている部分があるのも事実である．以下，本巻での特集号のトピックである「変容するメディアとコミュニケーショに関する研究」について説明する．

本特集号で扱うテーマは，この四半世紀にわたって私たちの社会生活に大きな変化をもたらした状況をその中心的な研究対象としている．この変化の契機となったのは，インターネットの発達とスマートフォンをはじめとする個人情報端末の普及である．電子メールやメッセージングアプリなどのテキストによるコミュニケーション技術，ビデオ通話やWEB会議システムなどのオンラインコミュニケーション技術の進展により，コミュニケーションにおける時間と空間の制約が取り除かれつつある．また，ソーシャルメディアの普及により，マスメディアの時代には情報の受け手であった個人が，個人情報や情報伝達（情報拡散）の役割を担うようになった．このようなメディアの変容に伴い，コミュニケーションの形態，実態，社会的位置付けなどに大きな変化が生じたのがこの四半世紀である．さらにAIや自然言語処理における技術革新もコミュニケーションのあり方に大きな影響を与えている．音声翻訳や自動字幕などの技術は，コミュニケーションの幅を広げる役割を果たしている．また，生成AIは今まさに人々のコミュニケーションのあり方に変化をもたらしている新たな存在である．

本特集号では，このように変容が進んでいくメディアとコミュニケーションを取り上げる．メディア論やコミュニケーション論は本学会における主要な研究テーマであり，本特集号においては具体的に，各種メディアにおけるコミュニケーション構造の把握や，各種メディアの使用意識，メディアを活用した教育実践，オンラインコミュニケーションの特性の研究，異言語話者のやり取りにおけるメディアの活用とコミュニケーション，生成AIとコミュニケーション，自然災害や有事のコミュニケーション，公共空間のコミュニケーション，バーチャルコミュニケーションなど，さまざまな研究課題が想定される．このようなメディアの変容とそれにともなうコミュニケーションの実践，および，そこに内在する言語，社会，心理，教育等に関わる課題を論じた論文を期待したい．

本特集号は，本学会が設立されてからの四半世紀に生じた言語とコミュニケーションの変貌の実態に迫るものである．徳川宗賢氏が学会設立時にその必要性を説いた通り，既存の学問領域を超えた研究を実践することで，学問の地平を拓いたかどうかを世に問いたい．この設立趣旨に賛同する多くの会員からの投稿により，「社会言語科学」の実践を具現化したいとエディター一同願うばかりである．